

基礎的研修シラバス案

(検討中のため、内容は変更になる可能性があります)

基礎的研修シラバス案

就業支援基礎研修からの
変更内容等

科目名	1	就労支援の理念・目的、障害者雇用の現状と 障害者雇用施策・福祉施策		
形態	講義	時間	8060分	
目的・狙い	就労支援の理念・目的及び基本的な考え方、障害者雇用施策の概要、 障害者福祉施策の概要 、障害者雇用の現状、各種制度等について理解させる。			
実施内容	【講義】(8060分)			
	新規	1 就労支援の理念と目的(10分) ・就労支援の理念と目的 ・支援者としての共通した目的 ・福祉的就労と一般就労 ・「障害」の捉え方 等		○職場適応援助者養成研修(以下「養成研修」という。)の導入の科目(「職業リハビリテーションの理念」の内容を追加。(※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。))
	移動	2 就労支援の基本的な考え方(10分) ・働くことの意義の理解 ・就労支援の視点 ・支援者の役割と資質 ・企業の視点の理解 等		○就業支援基礎研修(以下「基礎研修」という。)の「就労支援のプロセスⅠ」の内容を一部移動。(※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。))
		3-1 障害者雇用の現状(10分) ・地域の障害者雇用の状況(障害者の雇用数、職業紹介状況等) ・障害者雇用の課題 等		
		4-2 障害者雇用施策の概要(25分) ・ 障害者雇用促進法の概要 国の障害者雇用対策の体系 ・雇用率各種制度 等 ・ 障害者差別禁止法、合理的配慮 等		
	新規	5 障害者福祉施策の体系や概要(15分) ・障害者総合支援法の概要 ・障害福祉サービスの体系 ・就労系障害福祉サービスの概要 等		○障害者総合支援法及び障害福祉サービスについて解説。(※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。))
		6-3 雇用労働施策と福祉施策と等の連携(10分) ・福祉・教育・医療から雇用への障害者の流れ ・ 就労移行支援事業と労働施策の連携 等		
	移動	4 障害者人材開発施策(公共職業訓練) ・一般の職業能力開発校 ・障害者職業能力開発校における職業訓練 ・障害者の多様なニーズに対応した委託訓練		○科目4「就労支援機関の役割と連携」の「1 就労支援機関の役割と業務内容」に統合。
備考	○各種制度の内容は主なものを大まかに説明するだけにとどめ、各種制度の詳しい情報の検索先を示しておくこと。			

基礎的研修シラバス案

就業支援基礎研修からの
変更内容 等

科目名	2	就 労業 支援のプロセス I (インターク～職業準備性の向上のための支援)		
形態	講義・演習	時間	50+20分	
目的・狙い	就 労業 支援のプロセスと支援に当たっての基本姿勢、職業相談や職業準備性の向上のための支援等の実施方法等について理解させる。			
実施内容		【講義】(50分)		
	移動	1- 就業支援の基本的な考え方 1-1 働くことの意義の理解 1-2 就業支援のための視点 1-3 支援者に求められる役割と資質 1-4 企業の視点の理解		○科目1「就労支援の理念・目的、障害者雇用の現状と障害者雇用・福祉施策」へ移動。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
		2- 就業支援のプロセスと手法 1- 支援に当たっての基本的姿勢 (10分)		
		2- インテーク、アセスメント、プランニング (15分) ・アセスメントから一般就労への移行の過程 ・各プロセスにおける実施内容、留意点 等		○アセスメントの方法の具体的な手法及び留意事項については、科目11「アセスメントの基礎」で実施。
		- 職業に関する方向付けのための支援		
		3- 職業準備性の考え方 (15分)		
		4- 職業準備性の向上のための支援 (10分) - 職業準備支援の事例		○事例紹介を削除し、時間を短縮。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
	移動	【演習】(30分) 3 「就労移行支援のためのチェックリスト」等の実施方法		○新規科目11「アセスメントの基礎」に移動。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
備考				

基礎的研修シラバス案

就業支援基礎研修からの
変更内容等

科目名	3	就 労業 支援のプロセスⅡ (求職活動支援～定着支援)		
形態	講義・意見交換	時間	50+20分	
目的・狙い	求職活動支援や定着支援等の実施方法について理解させる。 また、受講者相互の情報交換を通じて各種支援内容に関する理解を促す。			
実施内容	【講義】(5080分)			
	1 就職のための支援(20分) ・ハローワークの活用 ・受入れ企業の選定・開拓 ・企業へのアプローチ ・就職時の支援 ・ 企業へのアプローチの事例 等			○事例紹介を削除し、時間を短縮。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
	2 職場定着・雇用継続のための支援(20分) ・ 障害者・企業双方への支援 ・ 福祉施策等の活用や連携 ・ 支援の実施方法 等 ・ 職場定着・雇用継続に向けた支援体系、実施方法 ・ 職場定着・雇用継続支援の事例 等			○「福祉施策の活用や連携」において、就労系障害福祉サービスに加え、グループホームなど他の福祉サービスについても解説。 ○事例紹介を削除し、時間を短縮。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
	新規	3 加齢等に伴う雇用から福祉への移行(10分) ・ 雇用と福祉の双方向的な移行のための支援 等		○雇用から福祉または福祉から雇用への行き来について解説。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
移動	【意見交換】(40分) —3 所属機関における各種支援の取組について —※受講者は1グループ4～5名程度に分かれて、所属機関における各種支援の取組について情報交換を行う。 —〈情報交換の内容例〉 — インテーク、アセスメント、支援計画の策定、職業準備性の向上のための支援、求職活動支援、定着支援等各種支援の実施内容・方法 — 支援を実施する上で工夫・苦慮していること 等			○新規科目13「地域における就労支援の取組」に移動。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
備考				

基礎的研修シラバス案

就業支援基礎研修からの
変更内容等

科目名	4	就労支援機関の役割と連携		
形態	講義・意見交換	時間	60+20分	
目的・狙い	就労支援機関の役割と主な業務内容、ネットワークの重要性、地域におけるネットワークの状況を踏まえた就労支援機関との連携方法等について理解させる。			
実施内容	【講義】(60分)			
	1	就労支援機関の役割と業務内容(30分) <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク ・地域障害者職業センター ・障害者就業・生活支援センター ・<u>障害者職業能力開発機関</u> ・<u>就労系障害福祉サービス</u> ・<u>その他(医療機関、教育機関、発達障害者支援センター、難病相談支援センター等)</u> 		○就労支援を実施している機関として、就労系障害福祉サービス、医療機関、教育機関等についても、その役割や業務内容を具体的に解説。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
	2	就労支援ネットワークについて(30分) <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの重要性 ・ネットワークを構築するための基本要件 ・ネットワークの構造 ・ネットワーク構築の手順 ・ネットワークの修復・維持 等 		
	3	ネットワークを活用した支援事例 <ul style="list-style-type: none"> ——※地域センター等がネットワークを構成する他機関と連携・協力して支援を実施したモデル的な事例を選定し、説明する。 		○事例紹介を削除し、時間を短縮。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
削	【意見交換】(30分)			
移	4	関係機関との連携、ネットワークの活用状況について <ul style="list-style-type: none"> ——※受講者は1グループ4～5名程度に分かれて、所属機関における就労支援機関との連携状況について情報交換を行う。 ——<情報交換の内容例> ——・連携している関係機関(就労支援機関に加え、生活支援・家族支援を行っている機関も含めて) ——・具体的な連携内容(関係機関のどのような支援メニューを、どのようなタイミングで活用しているか等) ——・連携する上で工夫・苦慮している点 等 		○「意見交換」は新規科目13「地域における就労支援の取組」に移動。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
備考	○「2 就労支援ネットワークについて」は、事例を交えながらポイントをわかりやすく説明すること。			

基礎的研修シラバス案

基礎的研修シラバス案				就業支援基礎研修からの 変更内容等
科目名	5	障害特性と職業的課題Ⅰ (身体障害、 難病高次脳機能障害)		○養成研修、担当者研修においては、本科目の内容を踏まえ、より高度な専門性を要するケースへの対応などについて解説。
形態	講義	時間	60分	
目的・狙い	身体障害者及び 難病高次脳機能障害者 の職業的課題及び障害特性に即した対応方法等について理解させる。			
実施内容	【講義】(60分)			
	1 身体障害について(50分)			
	- (1) 身体障害の概要			
	- (2) 身体障害者の職業的課題			
	- (3) 障害特性に即した支援方法、支援上の留意事項			
	- 合理的配慮の事例			○「合理的配慮の事例」を追加。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
	削除	- (4) 身体障害者の就労支援事例 - ※事例の概要のほか、支援ニーズと職リハ計画のポイント、具体的な支援内容及び支援による効果(変化)等を含めて記載すること。		
	移動	- 2 高次脳機能障害について - (1) 高次脳機能障害の概要 - (2) 高次脳機能障害者の職業的課題 - (3) 障害特性に即した支援方法、支援上の留意事項 - (4) 高次脳機能障害者の就労支援事例 - ※事例の概要のほか、支援ニーズと職リハ計画のポイント、具体的な支援内容及び支援による効果(変化)等を含めて記載すること。		○高次脳機能障害について、精神障害者保健福祉手帳の対象となることを踏まえ、科目7「障害特性と職業的課題Ⅲ」に移動。 (※労働政策審議会障害者雇用分科会(第113回)において、障害別のカリキュラムについて、高次脳機能障害は精神障害の括りとする事への提言あり)
	新規	3 難病について(10分) - 難病の概要 - 難病の職業的課題 - 疾患特性に即した支援方法、支援上の留意事項 - 合理的配慮の事例		○「難病」を追加し、取り扱う範囲を拡大。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
	備考	○職業的課題、障害特性に即した支援方法及び支援上の留意事項に重点を置き、関連する具体的な事例を交えながら説明すること。 ○就労支援機器(ICTツールを含む)の活用についても障害特性に即して解説すること。(例 視覚障害:拡大読書器の活用、身体障害・難病:ICTを利用した在宅勤務等)		

基礎的研修シラバス案

基礎的研修シラバス案			就業支援基礎研修からの 変更内容等	
科目名	6	障害特性と職業的課題Ⅱ (知的障害、発達障害)	○養成研修、担当者研修 においては、本科目の内 容を踏まえ、より高度な専 門性を要するケースへの 対応などについて解説。	
形態	講義	時間 60分		
目的・狙い	知的障害者及び発達障害者の職業的課題及び障害特性に即した対応方法等について理解させる。			
実施内容	【講義】(60分)			
	1 知的障害について(30分)			
	- (1) 知的障害の概要			
	- (2) 知的障害者の職業的課題			
	- (3) 障害特性に即した支援方法、支援上の留意事項			
	- <u>合理的配慮の事例</u>		○「合理的配慮の事例」を 追加。 (※「基礎的研修カリキュ ラムイメージ」に基づく。)	
	削除	— (4) 知的障害者の就労支援事例 — ※事例の概要のほか、支援ニーズと職リハ計画のポイント、具体的 — な支援内容及び支援による効果(変化)等を含めて記載すること。		
	2 発達障害について(30分)			
	- (1) 発達障害の概要		○発達障害について、知 的障害を伴う場合もあるこ と及び科目7「障害特性と 職業的課題Ⅲ」への追加 が時間的制約により難しい ことから本科目で扱うことと する。 (※労働政策審議会障害 者雇用分科会(第113回) において、障害別のカリ キュラムについて、発達障 害は精神障害の括りとし ることへの提言あり)	
	- (2) 発達障害者の職業的課題			
- (3) 障害特性に即した支援方法、支援上の留意事項				
- <u>合理的配慮の事例</u>		○「合理的配慮の事例」を 追加。 (※「基礎的研修カリキュ ラムイメージ」に基づく。)		
削除	— (4) 発達障害者の就労支援事例 — ※事例の概要のほか、支援ニーズと職リハ計画のポイント、具体的 — な支援内容及び支援による効果(変化)等を含めて記載すること。			
備考	○職業的課題、障害特性に即した支援方法及び支援上の留意事項に重 点を置き、関連する具体的な事例を交えながら説明すること。 ○就労支援機器(ICTツールを含む)の活用についても障害特性に即して 解説すること。(例 知的障害:時間の見通しを持ちやすくするためのタイ マーの活用、発達障害:コミュニケーションエイドの活用 等)			

基礎的研修シラバス案

基礎的研修シラバス案			就業支援基礎研修からの 変更内容等	
科目名	7	障害特性と職業的課題Ⅲ (精神障害、 高次脳機能障害)	○養成研修、担当者研修においては、本科目の内容を踏まえ、より高度な専門性を要するケースへの対応などについて解説。	
形態	講義	時間 60分		
目的・狙い	精神障害者及び 高次脳機能障害 の職業的課題及び障害特性に即した支援方法等について理解させる。			
実施内容	【講義】(60分)			
	1. 精神障害について(45分)			
	- (1) 精神障害の概要			
	- (2) 精神障害者の職業的課題			
	- (3) 障害特性に即した支援方法、支援上の留意事項			
	- 合理的配慮の事例		○「合理的配慮の事例」を追加。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)	
	削	4 精神障害者の就労支援事例 — ※事例の概要のほか、支援ニーズと職リハ計画のポイント、具体的な支援内容及び支援による効果(変化)等を含めて記載すること。		
	移動	2. 高次脳機能障害について(15分)		○高次脳機能障害について、精神障害者保健福祉手帳の対象となることを踏まえ、科目5「障害特性と職業的課題Ⅰ」から移動。 (※労働政策審議会障害者雇用分科会(第113回)において、障害別のカリキュラムについて、高次脳機能障害は精神障害の括りとする事への提言あり) (再掲)
	- 高次脳機能障害の概要			
	- 高次脳機能障害の職業的課題			
- 障害特性に即した支援方法、支援上の留意事項				
- 合理的配慮の事例		○「合理的配慮の事例」を追加。(※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)		
削除	(4) 高次脳機能障害者の就労支援事例 — ※事例の概要のほか、支援ニーズと職リハ計画のポイント、具体的な支援内容及び支援による効果(変化)等を含めて記載すること。			
備考	○職業的課題、障害特性に即した支援方法及び支援上の留意事項に重点を置き、関連する具体的な事例を交えながら説明すること。 ○就労支援機器(ICTツールを含む)の活用についても障害特性に即して解説すること。(例 精神障害: Web上での体調管理・相談ツールの活用、高次脳機能障害: 記憶等を補完するPC端末の活用 等)			

基礎的研修シラバス案

就業支援基礎研修からの
変更内容 等

科目名	8	労働関係法規の基礎知識		
形態	講義	時間	60分	
目的・狙い	就 <u>労業</u> 支援を行う上で知っておくべき労働基準法、最低賃金制度等に関する基礎的な知識を付与する。			
実施内容	【講義】(60分)			
	1 労働契約上の注意点 ・労働契約の締結 ・労働時間、休憩、休日、 <u>休暇</u> ・賃金 ・ <u>退職、解雇</u> ・ <u>就業規則</u> 等			
	<u>2 安全衛生</u> ・ <u>安全配慮義務</u> ・ <u>健康管理</u> 等			
	32 法律上企業等に加入が義務づけられている労働保険・社会保険 ・労働保険(労働者災害補償保険(労災保険)、雇用保険) ・社会保険(公的医療保険、年金保険) 等			
	43 問題が生じた場合の相談先			
備考	○JEEDにおいては、社会保険労務士等の専門家を講師とする。			

基礎的研修シラバス案

基礎的研修シラバス案			就業支援基礎研修からの 変更内容等
科目名	9	<div style="border: 1px solid red; display: inline-block; padding: 2px;">新規</div> 企業に対する支援の基礎	○養成研修の科目「企業文化の理解」、担当者研修の科目「事業主支援の基礎理解」の内容を踏まえ新規科目として設定。 ○企業支援に必要な心構えや支援のプロセス、基本的なスキルを解説。 ○養成研修、担当者研修においては、本科目の内容を踏まえ、職務分析や職務創出などのより実践的な内容について解説。
形態	講義	時間 60分	
目的・狙い	企業を支援することの重要性、企業を取り巻く状況を理解した上で、企業を支援するプロセス、支援手法、留意点を理解させる。		
実施内容	【講義】(60分)		
	1 企業で働くとは(10分) ・企業の行動原理 等		
	2 企業を支援することの重要性(10分) ・企業の主体的な取組の促進 等		
	3 障害者雇用を巡る企業を取り巻く状況(近年の動向)(10分) ・障害者雇用施策の動向に応じた対応 ・行政指導の強化 ・CSRに関する取組 等		
	4 企業支援のプロセス及び支援方法(20分) ・支援ニーズの把握 ・事業所情報の把握(属性情報、障害者雇用に対する考え方、職場環境等) ・支援ニーズに応じた支援方法の検討、支援の実施 ・フォローアップ 等		
	5 企業支援の留意点(10分) ・企業との信頼関係の構築 ・企業担当者のメンタルヘルスに関する支援 等		
備考	○「4 企業支援のプロセス及び支援方法」については、事例を交えながらポイントをわかりやすく解説すること。		

基礎的研修シラバス案

新規			就業支援基礎研修からの 変更内容 等
科目名	10	ケースマネジメントと職場定着のための生活支援・家族支援	○養成研修の科目「ケースマネジメントと職場定着のための生活支援・家族支援」の内容を踏まえ新規科目として設定。 ○福祉サービスの活用を含む、職場定着に向けた生活支援・家族支援について解説。
形態	講義	時間 60分	
目的・狙い	ケースマネジメントの理念に基づき、職業生活を支える生活支援や家族支援の考え方と方法について理解させる。また、職業生活支援における企業の役割と関係機関の連携について理解させる。		
実施内容	【講義】(60分)		
	1 就労支援におけるケースマネジメントの重要性(15分) ・ライフステージや生活の変化に対応した支援の必要性 ・就労支援におけるケースマネジメント 等		
	2 生活支援の進め方(25分) ・就労支援における生活支援 ・生活支援のニーズと対応例 等		
	3 家族支援の進め方(15分) ・就労支援における家族支援 ・家族支援のニーズと対応例 等		
	4 生活支援、家族支援における企業と支援機関の役割分担と連携(5分) ・企業と支援機関が連携して行う支援の内容と役割分担 等		
備考	○「2 生活支援の進め方」、「3 家族支援の進め方」は、事例を交えながらポイントを分かりやすく解説すること。		

基礎的研修シラバス案

就業支援基礎研修からの
変更内容等

科目名	11	新規	アセスメントの基礎		○養成研修の科目「アセスメントの視点と支援計画に関する理解」の内容を踏まえ新規科目として設定。 ○養成研修においては、本科目の内容を踏まえ、アセスメントの結果を踏まえた支援計画の作成方法などについて解説。
形態	講義・演習		時間	100分	
目的・狙い	障害者に対する相談・支援を行う上での相談技法、アセスメントの方法と留意事項、アセスメント結果の分析と活用方法について、講義に加え演習を行うことにより理解を深めさせる。				
実施内容	【講義】(60分)				
	1 アセスメントの目的と心構え(10分) ・アセスメントの目的 ・「個人」と「環境」の2つの視点 ・障害者本人と支援者の協同作業(自己決定、自己理解促進)等				
	2 相談を行う上での技法(10分) ・相談を行う上での基本的態度 ・相談技法(傾聴、受容、共感等)等				
	3 アセスメントの実施方法と留意事項(30分) ・アセスメントの方法(面接・調査、検査、職場実習、行動観察等) ・アセスメントの視点(具体的な観察ポイント) ・アセスメントに活用できるツール(「就労移行支援のためのチェックリスト」等)等				
	4 アセスメント結果の分析ポイントと活用の仕方(10分) ・アセスメント結果の総合的な分析 ・ストレングスの視点 ・環境(事業所)との相互作用の視点等				
	【演習】(40分) ※受講者は、1グループ4～5名程度に分かれてグループワークを行う。 ※モデル事例に即して、以下の検討を行う。 ・アセスメントにおける対象者への聞き取りや観察の内容 ・把握した情報に基づく、対象者の就職、職場定着に向けた課題や支援の方向性				
備考					

基礎的研修シラバス案

基礎的研修シラバス案			就業支援基礎研修からの 変更内容等
科目名	12	企業における障害者雇用の実際	○内容を精査し、時間を短縮。 ○地域における、企業の障害者雇用の実際について理解を深められるようにする。
形態	講義(及び必要に応じて事業所見学)	時間 6090分	
目的・狙い	企業の障害者雇用の考え方、企業から見た求職者や支援者の課題、支援ニーズ等について理解させる。 必要に応じて、外部講師の事業所を見学する。		
実施内容	【講義】(6090分)		
	1 企業の概要(事業内容、企業理念等)		
	2 障害者雇用の考え方やの雇用管理の 実際状況 ・障害者雇用の考え方 ・障害者雇用率、各部署への配置状況、障害のある従業員の担当業務 ・雇用管理に関する取組(障害のある従業員との関わり方、職場内の支援体制 構築に関する取組、合理的配慮の内容 、現在の課題点等)等		○合理的配慮の内容を追加。 (※「基礎的研修カリキュラムイメージ」に基づく。)
	3 企業が求める人材 ・採用時に重視していること ・雇用継続において重視していること 等		
	4 支援者に求めること		
備考	○原則、企業の障害者雇用の担当者を講師とする。		

基礎的研修シラバス案

就業支援基礎研修からの
変更内容等

科目名	13	新規	地域における就労支援の取組		○基礎研修の「ケーススタディ」や意見交換を集約・統合し、新規科目として設定。 ○地域ネットワークの形成に向けた相互の交流・意見交換の機会にするとともに、事例検討を通じて就労支援の理解を深める。 ○地域における、社会資源やその活用などについて理解を深める。
形態	ケーススタディ・意見交換	時間	90分		
目的・狙い	モデル事例を用いたケーススタディと各支援機関の取組状況についての意見交換を通じて、具体的な支援のプロセスや支援方法、支援における関係機関との連携の実際、地域における社会資源やその活用方法について理解を深めさせる。				
実施内容	【ケーススタディ】(50分) 1 支援事例(障害者、事業主、家族等)の概要、支援課題の説明、事例検討(35分) ・モデル事例を用いたグループワーク ※取り扱う事例は、就労支援のプロセスを網羅し、かつ、支援機関と連携して支援を行った事例とする(支援のプロセス・内容、各支援機関の役割分担等について受講者が理解を深められるようにする)。 ※受講者は1グループ4～5名程度に分かれて、グループごとに事例検討を行う。 ※検討終了後、各グループから検討内容を発表する。 2 実際の支援内容、支援機関との連携、支援実施上のポイント等の説明(15分) ※受講者の事例検討で出た意見についても触れながら解説する。				
	【意見交換】(40分) 3 地域における就労支援の取組について ・グループワーク ※受講者は1グループ4～5名程度に分かれて、所属機関における支援の取組、企業や支援機関との連携、ネットワークの活用状況等について、それぞれの立場から意見交換を行い、今後の取組につなげていく。 <意見交換の内容例> ・就労支援のプロセスにおける自機関の役割、支援の内容、支援を実施する上で工夫・苦慮していること ・連携している支援機関(就労支援機関だけではなく生活支援・家族支援を行っている機関や企業を含む)、具体的な連携内容、連携する上で工夫・苦慮していること ・今後、効果的な就労支援を行っていく上で必要と感じる取組(障害者支援に関すること、企業支援に関すること、関係機関との連携に関すること)等				
備考					

基礎的研修シラバス案

就業支援基礎研修からの
変更内容等

科目名	14	新規	講義の振り返り		○一部の科目をオンライン形式で実施した場合は、集合研修の冒頭に、オンライン形式で実施した講義の振り返りを行う。
形態	講義・質疑応答		時間	60分	
目的・狙い	オンライン形式で実施した講義について、ポイントの復習と質疑応答を行い、理解・知識の定着を図る。				
実施内容	<p>【講義】(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン形式で実施した講義について、受講者の理解状況を確認しながらポイントを復習する <p>【質疑応答】(30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合研修実施に向けて、オンライン形式で実施した講義について質疑応答 				
備考					